外国出張報告書

平成 26 年 12 月 17 日

1. 出張国名　　ミャンマー

2. 出 張 月　　平成 26 年 12 月

3. 出張目的　　ミャンマーの漁業状況把握及び有害、
有毒プランクトンの影響実態調査：C

4. 成果の概要

科研費・基盤研究（B）海外学術調査「ミャンマーの高い漁業生産を支える海洋環境と潜在的リスクの評価」（広島大学）において、将来的に同国漁業の安定生産に影響を与えると推察される有毒、有害プランクトンの出現による漁業影響実態把握を分担する。

本出張では、同国の有害、有毒プランクトンの出現リスクの現状把握のため、主に聞き取りによる被害実態調査を行った。今後、ミャンマーでの二枚貝養殖の持続的安定生産の実現に向け、簡易分析法を用いた貝毒モニタリングの普及を進め、同国で水揚げされる二枚貝類の食品の安全性確保を図る。

今回、国内最大の水産都市 Myeik を訪問し、現地の大学、政府水産局、市場等の関係者から二枚貝漁業の状況の聞き取り、現場視察の結果、二枚貝類の主な水揚げはハマグリ類で、僅かながらカキ類、イガイ類等の水揚げもあることが分かった。これらは何れも天然貝で、養殖ものは皆無である。また、同海域では現在のところ麻痺性貝毒の検査体制は無く、被害の有無を含め実態に関わる情報が殆ど無い状況だった。

同海域で採集されるプランクトンを観察してきた研究代表者によると、乾季後期（3－4 月）には多様な渦鞭毛藻類の出現が確認されている。

今後、この時期を中心とした影響実態把握を進める。